



八雲ソフトウェア
福間 俊貴さん

ITで地域貢献したい

システム開発の(株)八雲ソフトウェア（松江市朝日町）に昨年6月に入社した福間俊貴さん（45）は、営業部で顧客と開発エンジニアの橋渡しを担う。

松江市出身。島根にIT企業が増えたのを受け、地域貢献できる仕事がしたいと、エンジニアとして20年間勤めた東京のIT企業を辞めてUターンした。「顧客の要望と完成品が食い違い、トラブルになる例は多い。要望をどこまで反映できるか事前に説明し、信頼関係をつくることができれば防げる」と、前職の経験から重要性を感じていた営業職を自ら志願した。

自社のPRを強化しようと、社業を紹介するカタログを新たに作成。AIスピーカー向けアプリの開発にも携わり、視覚障害者情報提供施設ライトハウスライブラリー（松江市南田町）での聞き取りから、活字情報や災害時の避難所情報を読み上げるアプリを考案した。「高齢化や空き家などの地方の課題をITで解決したい」と希望を抱く。（中村成美）



y+M design office
三宅 正浩さん

2度目の建築賞奨励賞

1級建築士事務所の(株)y+M design office（神戸市）で共同代表を務める三宅正浩さん（44）は2018年4月、島根県邑南町にUターンした。実家の納屋を改装して同社の「島根Lab」とし、設計業務に取り組む。

地元の矢上高校に通う頃から建築業を志望した。1995年の阪神大震災後に入社した積水化学工業(株)（大阪市）は、住宅再建の仕事を請け負っていた。「ものすごい量の設計をした」。自身の手掛ける住宅が被災地の復興につながった。

ファイナンシャルプランナーの資格を持つ同僚と、2006年に今の会社を立ち上げた。18年には2度目となる一般社団法人日本建築士事務所協会連合会（東京都）の建築賞奨励賞に選ばれた。「自分の中で高みを目指そうと思ったが、2度目の受賞まで（8年の）時間がかかった」。苦悩を経て、古里に戻って榮譽をつかみ、さらなる挑戦を決意している。（杉原一成）

記者COLUMN
巷街説

「公共」担う民間の力

人 口減少による自治体の財政難などで、行政サービスが縮小傾向にある。そうした中で、自治体に代わって公共的なサービスを担う民間の力に期待するところが大きくなっている。

江津市は2010年度から、創業支援を目的にしたビジネスプランコンテストを開催している。基幹産業である瓦業界などの苦境で雇用の受け皿が減る中、起業を促して若年層の人口流出を食い止める。さらにコンテストは地域課題解決型のビジネスを提案条件に掲げ、行政サービスが行き届きにくい部分を民間と力を合わせて対応していくことを眼目としている。

市内でこのほどあった18年度のコンテスト最終審査会に足を運んだ。全国から5組が出場し、瓦の普及を目指した瓦検定や、労働者不足を補うためベトナム人労働者の受け入れを拡大して地元企業を支援するアイデアなど、市政が抱える課題の解決に向け、各出場者が熱弁をふるった。審査の結果、バランスボールを使った独自プログラムで産後ケアを充実させ、江津を子育て環境に優れた「お母さん支援特区にしたい」と訴えた市内在住の20代女性が大賞を射止め、創業資金100万円を手にした。

市によると、コンテストを経てこれまでに18件が創業に至った。ただ、地域課題の解決とビジネスを両立させるのは容易ではなく、起業家たちは日々悩みながら経営に当たっている。人口減少が加速する島根県西部では、自治体が民間の力に負う部分が増えつつある。こうした動きを伝え、活動を後押しする使命を改めて感じている。

（福新大雄）